

# 令和3年度学校運営連絡協議会実施報告書

## 第1 組織

- 1 名称  
都立新宿高等学校学校運営連絡協議会（全日制課程）
- 2 構成
  - (1) 協議委員8名：教育関係者4名(中学校長、大学教授、予備校、学習塾関係者)  
保護者代表(新旧PTA会長)3名、同窓会代表1名
  - (2) 内部委員6名：校長、副校長、経営企画室長、教務部主幹教諭、進路指導部主任教諭、生活指導部主幹教諭  
\*事務局長1名：総務部主任

## 第2 令和3年度学校運営連絡協議会の実施状況

- 1 第1回 令和3年6月12日(土)開催
  - (1) 校長挨拶及び委員委嘱
  - (2) 令和2年度学校経営報告・令和3年度年度学校経営計画及び本校の教育活動の概況
  - (3) 本校の現状と課題を書面で報告(教務部・進路指導部・生活指導部各主任)
  - (4) 本校の教育活動についての意見交換
- 2 第2回 令和3年10月30日(土)開催
  - (1) 令和3年度学校経営中間報告(校長)
  - (2) 本校の現状と課題(教務部・進路指導部・生活指導部主任)
  - (3) 学校評価委員会「令和2、3年度学校評価アンケート」内容の検証、提起と検討
  - (4) 本校の教育活動についての意見集約依頼
- 3 第3回 令和4年2月5日(土)開催
  - (1) この1年を振り返って(校長から)
  - (2) 本校の現状と課題(教務部・進路部・生活指導部各主任)
  - (3) 学校評価委員会「令和3年度学校評価アンケート結果」報告と学校への提起
  - (4) 本校の教育活動についての意見交換

## 第3 評価委員による学校評価

- 1 学校評価の観点
  - (1) 教育目標の達成のため、本校がその教育機能をどの程度果しているかを確認する。
  - (2) 評価結果を踏まえ、令和4年度の学校経営方針に反映し教育活動の改善に役立てる。
  - (3) 総合的かつ客観的な評価結果を得るよう努める。
- 2 アンケート調査の実施時期・対象・規模
  - (1) 12月 保護者 948人(回答者数：728人 回答率：76.6%)
  - (2) 12月 学校教職員 56人(回答者数：56人 回答率：100%)

※生徒対象アンケートは、全校生徒を対象とする「生活と意識に関するアンケート」(生活指導部)、「生徒による授業評価」(教務部)、「学習時間調査」(各学年)等で代替していたが、今年度より実施。詳細は別途結果報告にて参照のこと。
- 3 主な評価項目
  - (1) 学校運営 学校の教育目標はわかりやすく示されているか。
  - (2) 学習指導 学習指導が工夫されているか。
  - (3) 生活指導 生徒が基本的な生活習慣を身に付けられるような適切な指導が行なわれているか。
  - (4) 進路指導 適切な進路情報の提供に努めているか。
  - (5) その他 学校と保護者との連携は良好であるか。
- 4 評価結果の概要及び分析・考察

### 全般

今年度はアンケート対象を根本的に見直し、生徒も対象としたことや昨年来の学習支援クラウドサービス(Classi)による実施とした。保護者回収率は向上の兆しがみられたが、今年度暫定的に実施した生徒アンケートについては、年度当初より計画的な実施が望まれる。アンケート回収率については、後の評価にも表れるが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、生徒の学習活動が大きく制限されたこと、保護者の皆さまが直接来校して本校の教育活動を目

で見て、感じるができなかったことに大きく起因していると考えられる。次年度以降、少しでも改善できるよう社会情勢を踏まえながら教育活動を推進していくところである。

学校評価アンケートは一部改善を図ったが、教育委員会が指定する「教職員のライフ・ワーク・バランス」など回答が難しい設問も含めて設問、回答選択肢ともほぼ、昨年同様となった。これは、例年との比較が容易であることと回答の中心化傾向を避けるためである。

アンケート結果には今年度もコロナ禍の影響が如実であり、教育活動の計画変更、授業時間等の制約、特別活動（学校行事、部活動等）の中止・延期などにより全般的に評価は低下傾向にあった。

以下、回答における肯定的回答（「そう思う」「ややそう思う」の割合の合計）を中心に昨年度のものと比較して全般的に分析する。

### 学校生活

3年次での評価に低下傾向がみられている。保護者の最終学年での生徒の活動と新宿高校の指導成果を確認できなかったためと考えられる。生徒や学校への期待の大きさを感じる場所である。また「部活動・生徒会・行事の活発」では全学年で評価が低下傾向にある。特別活動が一部中止・延期となっている現状では、残念であるが当然の評価と考えられる。実施した活動もあり高評価に移行してきている項目もある。

### 学習

1年次の「基礎・基本の徹底」「指導法の工夫」で評価が低下傾向にある。これは入学時に授業短縮などがあり、授業での生徒・教員相互の関係性の確立が難しい結果、個に応じた指導が十分できなかったためと考えられる。一方、1年次では全項目で昨年以上の評価を得ている。このような特異な状況でも、新宿高校の学習指導は一定の有効性を保てる証と考えられる。また、これまで課題であった「家庭での予習・復習」は全学年で評価が向上した。これは臨時休業などで課題提出などに向けた家庭での取り組み時間が増えたこと、自習室の活用の増加、保護者と家庭で過ごす時間が増えたことなどに起因すると思われる。家庭での学習習慣については更に今後にむけた課題ととらえることができる。

### 進路指導

全般、評価は低下傾向にあるものの、2年次の「保護者との連携」で一部厳しく評価されているほかは、担任はじめ関係教員の少ない時間を利用した適宜適切な指導から大きく評価を下げた項目は全般的に見られない。授業等の学習指導もオンラインやハイブリッド対応が出来た今、保護者・生徒との面談等のオンライン化だけでなく質の向上をこれからの課題の一つとして把握する。

### 生活指導

2項目とも適切に評価がされているが、両項目とも大きな変動がない3年次生は落ち着いた学校生活を保てたものと考えられる。「指導方針の明確化」を今後も課題とする。

### その他

「情報の発信」では、校長先生のHP発信がもとになり全般的に大変評価を頂いている。学校行事等の中止・延期で記事となる事柄は不足していたとはいえ、日常的に学校生活をほぼ毎日発信することにより、関心が高まり、本校の理解を躍進的に得たことに繋がっていった。結果、学校への苦情は年度当初に数件あったのみで、ほとんどなくなっていった。今後も情報発信に努めた学校運営を心掛けなくてはならない。「ライフ・ワーク・バランス」では評価を得にくい項目であることを認識し、現状の裏返しととらえ根本的な課題解決を図らなくてはならない。

また、昨年度からアンケートの回収方法を、紙ベースから学習支援クラウドサービス（クラッシー）利用へと移行、回収率はやや持ち直したが、一定の回収率にとどまっているので、一層事前の周知を図りながら、紙媒体の併用などを合わせ、同回収率の向上を図っていく方向で検討を更に進める。

新たな回収方法により、今年度も自由記述欄の書き込みが増え1件当たりの文字数も増加。記述内容は多岐にわたるが、「オンライン学習の推進」「学校行事の充実」の2点につ

いては以前多くの関心があった。このことについては「オンライン学習」はハイブリッド対応の充実の実践で、「学校行事」は各行事の計画を十分に検討し、安易に中止にしない方針の発信を強化し、今後も理解を得る取り組みを充実推進させていく。

#### 第4 「学校がよくなったかどうか」に対する協議委員の回答数

(協議会評価アンケート結果より)

そう思う	多少 そう思う	どちらと も 言えない	あまりそ う 思わない	そう 思わない	分からな い	無回答
5	1					2

#### 第5 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び学校運営連絡協議会の成果等

1 参加実績 職員会議：0回・延べ0人、 企画調整会議：0回・延べ0人、

2 成果等

本校の進学指導体制の整備、拡充について、幅広い見地から情報提供及び協議が行われた。また、高校入試に関する情報も共有され、募集対策に役立たせていきたい。学校運営等に関して保護者代表からの意見を直接聴取する貴重な機会としての機能も果たした。今後は地域との結びつきを重視し、近隣地域の協議委員を招聘していく。